第２次安曇野市生涯学習推進計画策定委員会 第１回会議概要

１　会議名　　第２次安曇野市生涯学習推進計画策定委員会第１回会議
２　日　時　　平成 29 年４月 27 日（木）　午前９時 30 分から 11 時 38 分まで
３　会　場　　安曇野市役所　共用会議室 306
４　出席者　　宮下（健）委員、平田委員、安井委員、宮下（克）委員、百瀬委員、幅委員、上兼委員、平倉委員、降旗委員、古川委員、三澤委員、堀金委員
《事務局出席》　山田教育部長、生涯学習課蓮井課長、堀金係長、古畑副主幹
株式会社 KRC
５　公開・非公開の別　　公開
６　傍聴人　０人　　記者　０人
７　会議概要作成年月日　　平成 29 年５月８日

会　議　事　項　等

○会議の概要
１　開　　会　　蓮井生涯学習課長
２　あいさつ　　山田教育部長
３　委嘱書の交付
４　自己紹介　　全員
５　委員長及び副委員長の選出
委員長　宮下健司委員、副委員長　平田米子委員
６　会議事項
（１）スケジュールの確認について
（２）第１次計画の問題点と現在の状況について
（３）質疑等　　各委員から計画に関して質問、意見をいただく
７　閉　　会　　平田副委員長

○会議事項
（１）スケジュールの確認について（事務局より説明）
（２）第１次計画の問題点と現在の状況について（事務局より説明）

【委員】　アンケート結果について、各地域によって回答率にバラつきがあると思われるが、それに関するデータはあるか。

【事務局】　具体的なデータ資料は今日ないが、概ね地域の人口構成比を反映していると言える。

【委員】　地域による回答の違いは。

【事務局】　回答数の違いは地域によってあり、全てのクロス集計はしていないが、資料中にひとつ地域別の分析を入れてあり（P5 問 17『生涯学習をするために必要な情報はどのような場所で提供されるとよい（効果的）と思うか』）、これについては地域の特性があるので地域ごとの分析をかけている。

【委員】　地域によってそれほど差はないかもしれないが、スポーツ・健康づくりの関心が高い。これが地域ごとで要望がどう変わってくるのか。市として計画を策定し、それが各地域に合うか。地域ごとにある施設も違うのでそうした課題も必要かと思う。

【委員長】　いくつかの町村が合併してできた市であるので、そういう視点は大事。

（３）質疑等
【委員長】　これまでの説明、今後の見通しを含めて、また、初めての会議でもあるので今後どのような計画を作り上げていきたいか、それぞれ生涯学習にかかわる立場からご意見をいただきたい。

【委員】　アンケート結果で「５年くらいの間に生涯学習の取り組みをした」という方が少ない。生涯学習の定義からすると広範囲なのでもっと多くてもいいと思う。個人によって「生涯学習」の定義が違っていると思われる。
　また地域によっては過疎、高齢化が進む。住民のニーズに応えられる公民館活動が求められており、今後もそのような事業を継続していきたい。

【委員】　美術館においては学習の成果を発表する機会が頻繁にあり、発表したいという方もかなりいる。これは今後も生かしていきたい。ただ 10 年先を考えるとなるとどうか。田園産業都市だけではなく田園文化都市という魅力もあるのではないか。安曇野の魅力を重点に考えていきたい。
　Ｉターン組の 60 代以上はいろんなことに積極的に興味関心を示している。安曇野へ移住してからなお意欲的なのは、生きる意欲、生きがいの持ち方の違いなのか。地域に昔から住んでいて人間関係が固定し自由な発想ができない、しがらみを持っている住民もいるかもしれない。そういうしがらみから抜けてきている人たちの活動は大きいと感じる。自由に自分らしく生きるために枠をどう取り払っていくか。
　もうひとつは子どもたちの問題。今の子どもは集団になって行動ができない。将来的に活力ある市にしていくためには、地域で活動したいという小学高学年～中学生が活動できる、地域でリーダーシップを発揮できるための支援の仕方、自主学習の仕組みを考えることも大事である。

【委員長】　Ｉターンの方も一緒になってこれからの安曇野を作っていく、わかりやすく例えると、Ｉターンなどで移り住むひとは「風の人」、地元にいるひとたちは「土の人」。それが一緒になって安曇野の新たな「風土」が生まれてくるのではないか。生涯学習の視点のなかで非常に大きいことだと思う。

【委員】　図書館について、施設も充実しており大勢の利用がある。夏季などは都会からのお客さんもあり、ゆったりとした環境の良さは第一にあげてもらっている。図書資料においても５館でまわすことで充実してきている。利用者の満足度も高い。現在は子どもへの読み聞かせや親子での利用など、「静かにする図書館」だけではない形態になってきている。しかし、静かさを求めてくるかたとのトラブルもあり、本来のありかたと新たな形態、両面持っている施設である。農耕地域では地元のかたの利用度は季節的に変わる。人口の少ない地域で、そのような地元の方の利用については、この委員会で皆様の御意見等を聞くなかで図書館にも生かせたらと思う。

【委員長】　図書館も生涯学習の拠点であるので、そのあり方も計画のなかで大きな位置づけになってくる。

【委員】　アンケートの中の人権教育についての設問の結果を見ると、関心が薄いことを感じる。民生委員としても活動しているが、子どもにしても高齢者にしても地域の見守り、支えあいということをよく言われる。あらゆる面で「地域〇〇協議会」というのがあるが、立場上地域をまわっているので自分は逆に「隣のおばちゃん」的な視点から、生涯学習とは？文化活動とは？ということを見ていきたいと考えている。また自分の地盤としている地域の立場からするとどうなのか、ということも大事に考えていきたい。
　まちの歴史というのは作り上げられてきたものの意味が大きいと感じる。安曇野にも発信すべき魅力があるはずなので、それを生涯学習の視点からならどうなるのかを考えたい。

【委員】　特にここ数年、子育て世代が児童館という場所を選んできている。核家族化、アパート住まい等の現状からか、安心で安全に子どもと過ごせる場所として児童館利用者数が増えてきている実感がある。安曇野市では公園デビューではなく「児童館デビュー」の傾向。児童館は 18 歳まで利用できることもあり高校生の放課後利用もある。
　２回目以降の会議でグループ討議をする際に、もし可能であればアンケート問 18 にある各設問の具体例（サービスや施設）をあげてもらえれば討議もしやすいかと個人的に思う。

【委員】　例えばアンケートの内容について、若干答えにくいし理解しにくい。実際に市のアンケートの回答について高齢者の市民から「どうやって書けばいいのか」という相談も受けたことがある。聞いたことのない言葉や難しい言い回しで埋まっているような印象になるのだろう。もう少し市民目線に近づけられないのかと考える。この計画についても誰が見て、中身をどう理解して、何を選んでいくのかと流れを考えたとき、誰も見ていないのではないかとも思う。作っている人や必要だと訴える人の思いが伝わらないことも考えられるので、わかりやすい計画策定が必要。「使えるもの」を策定していきたい。

【委員】　芸術文化協会が地域にあるが、どこの地域も高齢化。継続していけるのか。かつては学習する

機会がほしいと思ったとき、そこに公民館があり、同じ思いを持った人が集まり、グループができた。この形を作ることが生涯学習では必要ではないか。今は学習する場所は公民館だけではなく多岐にわたっておりカルチャーセンター等もあるが、それではカバーしきれない意味合いがある。趣味の分野だけが生涯学習ではないと考える。例えば昔からの知恵を若い人が学ぶ機会も大事なこと。子どものうちからいろんなことを体験し、学校では学べないことを学び独り立ちできるようにすることが必要。40 代頃までを青少年だと考えているが、子ども世代での体験は青少年のリーダー育成にもつながると思う。これは次世代のために考えないといけないことである。

子どももそうだが、大人も「群れる」ことを嫌っている時代。個人情報ということからも群れることを避ける人もあり難しい時代になっている。しかし隣近所でも群れないとこれからの時代はやっていけない。健康で元気、というだけではなく生きがいが重要。生きがいを子どもの頃から持てる人間を育てることに生涯学習の良さがある。

【委員長】　様々なサークル・グループ活動がいま断絶しつつある。全国的にも問題になっているが、これを継承していくべきなのが次代の担い手である若い人たち。その世代へどうつなげていくのか。学校教育の学校に対して、もうひとつの学校が生涯学習である。これは今回の計画に大きくくんでいくと思う。

【委員】　市のスポーツ人口（協会加入等）は７千人程。人口の１割に満たない。しかし、人口は減ってきているなかスポーツに関心を持つ人は増えてきている。高齢者でいうと生活にゆとりがでてきていることも考えられ、また、健康志向ブームもある。アンケートに答えなかった人を推測すると、生涯学習・スポーツをやっていない人が多いのではないか。やっていないから答えないのでは。そういう人たちに楽しみや喜びを覚えていただくためにどう向けていくか。広報の活用も重要。

また文化の面で考えると長野県は美術館が多い。文化のなかでこの特長を生かしていければいいと思う。

【委員】　各小学校で週１回、放課後の子どもたちを遊ばせる事業を行っている。異学年の集団の上下関係のなかで子どもに自主的に遊んだり、皆で共同で何かをやったりという内容。仲間で集まっていろいろやることが苦手な現代ではあるが、最初はポツンとひとりでいた子も１年経つとちゃんと集団になじめている。ただ、学校とのつながり・関係がいまひとつうまくいっていないこともある。

地区で役員をやった経験からいうと、地区の行事になかなか人が集まらない。参加する人はいつも同じになる。役員になるのも同じ人ばかり、ということも。また、子ども向けの行事を企画しても、塾・習い事・家庭事情等で、こちらも人集めが大変だという状況。

昔の町村の壁がとれていないと感じる。地域差も実感することがあり、ある地域では移住してきた人たちの元気の良さを感じる。また、自分の経験からしても、何かに参加するにも場所が遠いと感じることが多い。活動単位がもう少し小さくてもよいのではないかとも考える。各地区公民館単位くらいでやれれば、スポーツにしてももっと参加人員が増えてくるのかもしれない。

【委員】　生涯学習の講座を受けた立場。安曇野市に住むようになってしばらくは仕事も忙しく、生涯学習に目を向けることもなかったが、数年前の安曇野検定のために勉強することで興味を持ち、道祖神を求めて歩いたこともあった。家で勉強することもいいが、実際に足を運び、目で見て確認しないと自分の実にならないと実感し、いろいろな講座などにも参加するようになった。参加者は自分と同世代の 60 代くらいが多いが、中には若い世代や子どもの参加があることもあり、その場合は場の雰囲気がさわやかに感じられる。異世代で同じことを学べることはいいこと。勉強をし始めると深いし広い。関連を学習しているうちにつながってくることもあり学習範囲が広がっていく。

生涯学習とは何かと考えてみると、生きることと同意義くらいに思う。生きることは勉強することという気もする。違う世代で同じ勉強をするという機会も大切。

【委員】　自然に恵まれている安曇野で、そこに住む人たち皆が幸せだと感じられるようにしていかなければいけないと思う。60 代くらいの女性の元気の良さを感じる。自分が参加して満足すると、次は人を誘って参加してくれる。ただ、人と人とがささえあうというよりは「自分がどう楽しんでいくか」という人が多い。自分だけではなく「人にも楽しみをおすそ分けする」よう、人と人とのささえあいを組み込んでいければいい。